

PK 負けに肩を落とす駒大イレブン。この経験が来年、2年後に活かされていけば決してこの経験は無駄ではない  
(撮影・岩田陽一)



PK戦経過	1	2	3	4	5
駒澤大学	30	30	33×	12×	—
青山学院大学	2×	190	140	200	50

平成 15 年度 第 24 回関東大学サッカー新人大会 決勝トーナメント 3 位決定戦

# 駒澤大学 1 (2PK4) 1 青山学院大学

## 去年の悪夢再び！！

### 駒大、新人戦は 2 年連続の 4 位…

最上のスーパーゴール  
で追いつくも…

一点を決められるところで決められなかった、前日の試合後選手達が話していたこととまったく同じことを試合後選手達は話した。

決勝トーナメントの初戦で東工大に惜しくも敗戦を喫した駒大は 3 位決定戦で青学大と対戦した。駒大は本間、最上といった初出場の選手達を起用。前日の敗戦を払拭しようとする選手達は序盤から積極的に攻撃を仕掛けた。10 分にはこの日初出場の本間がシュートを放つと 12 分に印出、20 分には本間が果敢に青学大ゴールに迫る。得点にはいたらないもののいい形で序盤は試合を支配する。守備陣も 23 分、こちらも初出場の最上が林のシュートをラインギリギリでクリア。初出場 2 人のプレーで勢いに乗る駒大。しかし、課題の決定力不足は相変わらずでシュートがゴールを揺らすことなく前半は終了してしまう。

後半は開始早々から青学大ベース。すると 8 分に今口に先制点を許してしまい嫌なムードに。だが、ここで奮起したのは最上。宮崎から受けたボールをおもいっきりよくシュート。30 m はあるうかというスーパーゴールで一気に流れを変えた。しかし、そこで畳み掛けられないのが若さ。なかチキンスは作るものごとくチャンスはモノに出来ない駒大。87 分には船山を投入してリズムを変えようとするが、リズムは変わらず PK 戦へ。

PK 戦はいきなり三栗が魅せる。青学大一番手のシュートをセーブ。駒大が早々と有利になる。その後は互いに譲らず迎えた 3 人目。竹内のシュートは相手 GK に止められスコアを同点とされてしまう。すると緊張の糸が切れてしまったのか続く笹岡も失敗。最後に青学大・田中に決められ昨年と同じく 4 位で新人戦を終えてしまった。

「これが自分たちの実力。素直に受け止めるしかない」(笹岡) と言うもののこのタレントから見ればもう少し上にはいけたのでは？ と思うだけに残念である。この新人戦に